

【東みよし町】 校務DX計画

令和元年12月に文部科学省が打ち出した「GIGAスクール構想」が始まり、現在はGIGAスクール構想の第二期に向けた準備段階である。児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、個別最適化された創造性を育む教育を学校現場で持続的に実現させるべく教育委員会、学校が一丸となって努力をしている。

然るべきGIGAスクール構想の第二期に向けて、本町においても校務DXの推進を図る必要がある。校務DXを学校現場（教育委員会、学校）で推進し、クラウドサービスを活用することで、これまで莫大な時間がかかっていたアンケート集計や日程調整等をスムーズに行うことができる。これはクラウドサービスを活用した校務DXの一例であるが、昨年実施した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による点検結果によると、本町においても校務DX化を十分推進できている項目と、今後改善していく必要がある項目が見られた。

校務DXを推進できている項目について、教育委員会においては、「研修のオンデマンド視聴」や「統合型校務支援システムの導入」、「教育情報セキュリティポリシーの策定」などが挙げられる。学校においては、「タブレット端末の持ち帰りの実態」や「クラウドサービスを活用した職員間の情報共有や連絡」などの項目が推進できている。

一方で、今後改善していく必要がある主な項目として、教育委員会は「ペーパーレス化」「教育委員会主催の研修会のハイブリッド（対面・オンライン）化」「クラウドサービスを活用した情報共有」等が挙げられる。これらの解決策としては、現在行っている事務作業の中で、ペーパーレス化を図ることができるものがないか見直し、申請やアンケートなどについては、アンケート作成・管理ソフトウェアを活用して実施するなど徐々に移行していく必要がある。また、研修形態や情報共有等についても、クラウドサービスを活用して集合型の対面形式が必須ではない研修については、ハイブリッドで開催したり、これまで電話で行っていた連絡をチャットに置き換えたりと、できることから実践していくことが大切である。

学校においては、「家庭への配布物及び連絡」「アンケート」「日程調整」等の項目を改善していく必要がある。これらの課題策としては、教育委員会と同様に、まずは実現可能な範囲でクラウドサービスを活用して、校務DX化を図っていくことが重要になる。

しかしながら、教育委員会や学校で行っている校務全てを直ぐにDX化することは困難である。ここで重要なことは、教育委員会と学校が円滑にクラウドサービスを活用するためには、使い手の研修を確実に実施していくことである。現在行っている校務の中で何をDX化できるのか、また効率よく行うためにはどのようなクラウドサービスを活用したらよいかを試行錯誤していきながら、見極めていくことが重要である。さらには、クラウドサービスを活用していく中で、情報漏洩を防ぐため

にはどのようなことに気を付けたらよいのかなど必要最低限の知識と技能を身に付けることが必須である。このように教育委員会と学校が十分に研修を行った上で、これからの校務DX化をできるところから実践していくことが極めて重要である。

最後に今後の展望として、令和5年3月に文部科学省が提言した「GIGAスクール構想の下での校務DXについて ～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」の中で紹介されている、校務系・学習系ネットワークの統合、校務支援システムのクラウド化、データ連携基盤ダッシュボードの創出などを検討していく必要がある。